

令和元年11月14日
(2019年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第二小学校
校長 清水厚彦

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。



1 教科に関する調査の分析

●国語 全体としては、全国値をやや上回りました。

設問を各領域別に分けてみると、「話すこと・聞くこと」では全国値を上回り、「書くこと」「読むこと」は全国値をやや上回り、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては全国値をやや下回りました。

<国語における課題点>

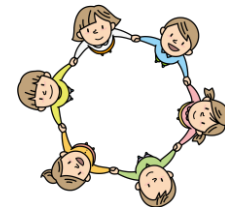
正答率が全国平均も低く本校もあわせて低かったのが、漢字を文の中で正しく使う問題です。特に、「地いきの人30人を調査のたいしょうとして・・・」や「かんしんをもってもらいたい」の問題でした。同じく、「公衆電話について調べたことを報告する文章で、調査と内容の結果から分かったことをまとめて書く」という問題で、与えられた条件を満たしながら提示された字数で記述することに課題が見られました。具体的には、分かったことについて報告する文章の中の「調査の内容と結果(1)と(2)」の両方から言葉や文を抜き出すことができていませんでした。

●算数 全体としては、全国値とほぼ同じでした。

設問を各領域別に分けてみると、「数と計算」「数量関係」は全国値とほぼ同じ、「図形」では全国値をやや上回り、「量と測定」では全国値を下回りました。

<算数における課題点>

図形の領域で「長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ」問題は全員が正解しています。正答率が低かったのは「 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算を計算しやすい式にする仕方として、 $1600 \div 100$ や $10 \div 2$ として紹介されていることをもとに、**わられる数** **わる数** **商**の言葉を使って計算の仕方についてまとめるとどのようになるかを書く」で、問題の趣旨を正しく読み取ることに課題が見られ、無解答率も高かったです。同様に、「図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を書く」問題でも「 $20 - 4 = 16$ 」の 1 つの式と「20」と「4」の2つの数の3つのことを全て書くことができなかつたり、問題の趣旨を正しく読み取ることに課題が見られたりしました。また、上記の 2 問を含め、全体的に「記述式」の問題形式が全国値より下回る傾向がありました。



2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【自分自身のことについて】

「自分によいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」「学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」の質問では肯定的な回答で全国値を下回っており、かつ積極的な「当てはまる」という回答が少なかったのが気になります。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(95%)の質問では、昨年度より肯定的な回答が上昇していますが、全国値よりやや下回っており、否定的にとらえている子どもたちがいることもしっかり受け止めていかなければならないと考えています。

【生活の様子】

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値を下回りましたが、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対しては全国値とほぼ同じでした。

「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値を下回りました。

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値を上回りました。

【家庭学習について】

「学校の授業時間外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」という質問に対しては、1時間以上の回答でみると全国値を上回りました。

「学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問に対しては、30 分以上の回答でみると全国値を上回りましたが、全く読まないという回答も2割あります。また、「読書は好きですか」質問での肯定的な回答は全国値を下回っており、進んで読書をしている子どもがいる一方であまり読まない子どもも多く、二極化傾向が見られます。

【教科の学習について】

「国語の勉強は好きですか」「国語の授業で学習したことを普段の生活の中で話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値を下回りましたが、「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしていますか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値をやや上回りました。

「算数の勉強は好きですか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値を上回りました。「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対しては「当てはまる」の回答が全国値を上回り、一方で「当てはまらない」の回答も全国値を上回り、二極化傾向が見られました。また、「普段の生活の中で活用できないか考えますか」「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の質問に対しては肯定的な回答が全国値を下回り、主体的に取り組むという観点から見ると課題が見られます。

3 今後の取り組み

～教科に関する結果を踏まえて～

国語

- 全体的にやや上回り、本校の重点研究目標の国語科を中心とした取り組みに一定の成果があらわれたと捉えています。ただ昨年に引き続き、「漢字を文の中で正しく使う」ことに課題がみられます。漢字の学習では、文字を覚えるだけでなく、漢字の持つ意味を大切にしながら、言葉や文章の中で正しく使えるように指導を工夫していきます。
- 本年度より、学校図書館(本や図鑑)を活用した授業を通して、自分の気持ちや考えを伝える力を育成する事業にも取り組んでいます。これらの活動を計画的に取り入れることで、自力で文章を読み解く力をつけていくとともに、得た知識を活用して発信していく力を育てていきます。

算数

- 単に計算の仕方を覚えて習熟に力を入れるだけでなく、日常の授業の中で、自力解決(個々で解き方を考える)⇒ペア学習やグループ学習(考え方を説明したり、聞いて理解する)⇒全体交流(多様な考え方に触れることで思考を広げる)というような学習の流れを大切にしていきます。
- 児童の興味や関心を高めるためにも、身近な教材を工夫し提示したり、日常生活や社会の中に算数が活用されていることを紹介したりして学習活動を行っていきます。

今回の結果をもとに、新学習指導要領にて掲げられている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、児童が主体的に話し合い、課題解決する機会を増やす授業作りを目指して、研修や授業研究に取り組み、教職員の授業力向上に努めて参ります。

～生活環境や学習習慣等の結果を踏まえて～

- 人はほめられたり認められたりすることで心を開き素直な気持ちになります。また、そうしてくれた相手に対して信頼が深まり、他人に対して優しくなります。子どもたちは毎日様々な活動をしています。個々の活動もあれば学級や学校全体での活動もあります。その活動の中で工夫したり努力したりしていますが、達成できる場合もあれば思い通りに事が運ばずに失敗することもあります。また、仲間との関係がスムーズにいかなかったり、トラブルになったりすることもあります。そのような時、懸念されるのが「何をやってもダメなんだ」「努力しても意味がないんだ」と考えてしまい、自尊感情の低い子どもになってしまうことです。結果も大切ですが、取り組む意欲やその過程を第一に考えて、学校でも言葉がけをしていくよう努めています。その言葉で子どもは勇気をもらい、またチャレンジする気持ちになります。

「もう一度やってみたらどうかな？」と言うだけで再び挑戦できる子もいれば「前よりずいぶん良くなってきたね。もう一息。応援するよ！」と励ましを必要とする子もいます。他の子と比べるのではなく、その子なりに努力したことや成長したことを認め、褒めてあげることで子どもはその後頑張ることができるようになります。

ご家庭におかれましても、子ども自身が主体的に活躍できる役割を家庭の中で与えたり、場を設けたりし、積極的に子どもの行動に目を向け、良さを認めることで自己有用感や自尊感情を高めていくことをしていただけるとありがたいです。また学校便り10月号の挨拶文でも紹介しましたが、子どもの話に耳を傾けることも大切です。ご家庭でもそういった時間を作ることを普段から意識されていることと思いますが、今後とも引き続きご協力よろしくお願ひします。